

2023年度／2022年度事業案内

川崎いのちの電話

病める心に寄り添い傾聴します

昨年来ロシア・ウクライナ戦争は一向に終戦の気配なく、物価高騰をはじめ経済悪化の状態は治まりそうにありません。また新型コロナウイルスは3年余りを経て季節性インフルエンザ並みの対処となったものの、依然と燃り続けて落ち着く気配なく、人々の日常生活はとても安寧とは呼べない今日この頃ではないでしょうか。

少子高齢化社会の中、核家族化を反映するかのようにタワーマンションの需要が伸びています。また飛躍的に進化するAI（人口知能）をはじめとするIT化により企業の事業活動も大きく変貌し、地域住民のコミュニケーションも益々希薄にならざるを得ません。言うなれば政治の問題とは思いますが、少なくとも昭和以前の時代とは様々な分野で相違していると思われまます。

小中高生のいじめ問題や各種の分断化が進行する社会で、格差は止める術なく広がり続けています。孤立し追い詰められ、心を病んだ末に希死念慮にまで至る人が年代性別問わず増えています。政府は孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを立ち上げ様々なつなぎ政策を試みっていますが、行政が出来るのはあくまで相談活動の基盤づくりであります。

川崎いのちの電話は1986年の開局以来、多くの善良な市民、川崎商工会議所、ライオンズクラブやロータリークラブ等の善意のボランティア団体、そして市長以下、行政当局のご支援をいただきながら、365日24時間体制で電話相談活動を続けております。相談員ボランティアは1年半の養成研修、その後毎月の継続研修、更にステップアップ研修を重ね、研鑽を積んでおります。自殺を希念する程に精神的に追い詰められ一人思い悩む人の心に寄り添い、よき隣人として傾聴します。

自殺者を出さない住み心地のよいまち、明るく健康な社会づくりを目指し、引き続き活動を続けてまいります。本年度も一層のご支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 川崎いのちの電話
理事長 金子圭賢

2023年度事業(活動)計画

1. ひとりでも多くの相談者につながるよう電話相談体制の充実を図る。
2. 近年続いたコロナ禍により社会不安、生活不安が増し、深刻な孤独・孤立そして生活苦に思い悩む人が増えている。多様な相談に対応できるよう、より一層研修の充実に取り組む。
3. コロナ対策として環境整備を進めてきたオンラインシステムを、今後も事業活動に活用していく。

○相談員養成研修の実施

相談員不足解消を目指し、電話相談ボランティア養成研修に重点的に取り組む。

○フリーダイヤル・毎日フリーダイヤルの取組み

フリーダイヤル・毎日フリーダイヤルに引き続き参加し、つながりやすい相談電話を目指す。

○オンラインシステムの活用

コロナ禍で取り入れたオンラインリモートシステムの会議・研修を継続し、事業の円滑な実施を図る。

○グループ研修等を通じた相談員の研鑽

相談員の継続的な研修の実施及び全体研修や自主研修による電話相談の質の向上を目指す。

○市民等を対象に講師派遣の実施

市民や団体・学校などを対象に、自殺予防の啓発や傾聴講座などへの講師派遣を実施する。

○その他2023年度実施予定の事業・イベント

※チャリティーコンサート：2023年11月18日『山形由美&中鉢聡名曲コンサート』

チャリティー寄席：2024年3月16日『柳家三三独演会』どちらも麻生市民館にて開催予定。

※上記のチャリティーイベントでは製作部による手作り品の販売を実施。

※広報誌の発行：年3回(7月・11月・3月)。※インターネット相談の対応

※自死遺族ほっとライン：(毎月第2・第4木曜日12時から16時まで044-966-9951)

※こころの健康セミナーの開催(川崎市と共催)

社会福祉法人 川崎いのちの電話

事務局：〒211-8690 川崎市中原郵便局私書箱17号 ☎ 044-722-7121 発行人：金子圭賢 URL：<https://kawasaki-inochinodenwa.jp/>

2022年度事業報告

新型コロナウイルスは、2022年度も感染拡大の波は収まらず、電話担当をはじめ、相談員養成研修や継続グループの活動、そして各種イベントへの影響は2022年暮れまで続いた。

1. この1年の歩み

①電話相談・研修業務

- 電話相談業務については、相談環境のコロナ対策の徹底により、2022年度も休止することなく継続して回線を繋ぐことができた。
- 2023年3月に、2年ぶりに36期の相談員として20名が認定となり、高齢化や家族の事情による相談員の減少傾向に一定の歯止め効果があった。また37期の相談員養成研修も、順調に進み2023年中には新たに相談員が認定される見通しとなっている。
- 現相談員の継続研修は2022年度から34期相談員も合流し14グループに分かれて活動している。2023年1月からは、新編成のグループとなり、引き続いて月1回の研修活動を行ってきた。また相談員の個別研修である義務スーパービジョンも全員実施できた。

②相談電話件数・相談員数

- 2022年(1～12月)の相談電話件数は12,037件で、2021年比191件減少となった。2020年は11,002件だったので、一昨年に比べれば1,000件増えているが、2019年までは13,000件から15,000件近い数字で推移していたので、相談員減少の影響は数字に反映されている。2022年度末の実相談員数は124名。

2. 寄付金—個人・団体の寄付について

- 2022年度の賛助会員寄付は2,614,000円(予算比4.5%増、21年度比10.0%減)、一般寄付は2,999,786円(予算比11.6%増、21年度比5.9%増)となった。寄付の総額は5,907,786円で、(21年度比2.4%減)年間予算(5,486,800円)を420,986円上回った。

3. 各部門の活動

- 継続グループの代表による相談員委員会は毎月1回開催、各グループの活動報告と事務局からの伝達事項の連絡を行った。また2022年度はとくに、「対応が難しい電話への対処について」など日ごろの電話相談の中で相談員が抱える悩み・不安をテーマに話し合いが行われた。
- 前年に続いて3回目の実施となったが、コロナ禍で内向する心身を解放するエクササイズとして、リラックス・ヨガの体験を実施した。

4. 川崎市からの受託事業、共催事業

- 自死遺族ほっとラインを受託。毎月2回(第2・第4木曜12時～16時)、計19件の受信があった。件数は少なくとも、「ここに話ができる電話がある」ことを大切に取り組んだ。
- 自死遺族ほっとライン研修【2023年2月18日(土)於川崎市役所第4庁舎、講師・引土絵未氏】を川崎市と共催で実施、22名の相談員の参加があった。
- こころの健康セミナーは、オンラインと会場(川崎市役所第4庁舎2階ホール)のハイブリット方式で2023年3月12日開催、参加者120名。テーマは「みんなで考える孤立と孤独」と題して講演(太刀川弘和氏)及びシンポジウムの講演者2名(西智弘氏、福正大輔氏)が加わり、シンポジウムを行った。会場とオンライン参加者からの質疑応答も実施した。

5. 講師派遣

川崎市社会福祉協議会「ゲートキーパー講座」、町田市こころなび相談員・心配ごと相談員研修、川崎市こころの健康相談事業(教育委員会主催)、に講師派遣を行った。

6. チャリティー事業

チャリティーコンサートは、「日本のうた122年を90分で！青島広志がご案内」と題して麻生市民館にて2022年10月1日に実施した。またチャリティー寄席は麻生市民館にて2023年3月5日、柳家三三独演会を実施した。どちらのイベントにおいても、多数の相談員、関係者及び一般客の参加を得て、広く市民への当法人の事業活動についての周知、啓発ができた。また両会場において本部、新ゆり両製作部のバザーを実施し、売り上げを記録している。

7. 広報誌の発行

105から107号の広報誌「川崎いのちの電話」を例年通り年3回発行(7月、11月、3月延べ13,500部)した。○105号「こころの健康セミナー～居心地のよさって何だろう～」○106号「誰もが居心地の良い地域づくりを目指して」○107号「いのちの電話の役割、より重要に」

8. インターネット相談

合計113件の相談に応じた。20代～40代からの相談が多い特徴が例年続いている。

1. 2022年の相談電話件数は1万2037件、女性の自殺志向が3年連続10%を超える

2022年(1~12月)の相談電話件数は1万2037件で、前年比191件減となった。新型コロナウイルス流行により相談員養成研修の中断を余儀なくされたことで、2年間新規相談員の誕生がなく、相談員が不足したことが理由。1日当たりの平均相談件数は33件。

相談者の男女比率は、男性46.0%、女性54.0%。年代別では、最も多いのが50代で21.9%、次いで40代19.7%、60代16.8%、30代13.8%と続く。

内容別では、「人生(生き方、孤独、コロナ禍など)」が3181件(26.4%)と全体の4分の1を占め、次いで「精神(こころの病気など)」が1894件(15.7%)、「家族」1501件(12.5%)、「対人」1321件(11.0%)の順となっている。

自殺志向のある相談の割合は全体の9.2%(前年比0.2%増)。男性が7.6%(同0.3%減)、女性が10.6%(0.5%増)で、男性の自殺志向は減ったが、女性の自殺志向が3年連続で10%を超えた。

年代別の自殺志向は、30代女性が17.8%と最も高く、次いで20代女性が16.6%、10代女性が11.3%(不明者を除く)。

内容別の自殺志向は、「教育」が15.6%(相談件数自体が少ないため参考値)、「精神」が14.9%、「人生」が12.6%の順。

総受信件数と自殺志向率

区分	受信件数	自殺志向率
男性	5,540	7.6%
女性	6,497	10.6%
計	12,037	9.2%

相談件数の多い内容

区分	件数
1 人生	3,181
2 精神	1,894
3 家族	1,501

自殺志向の高い年代性別

区分	自殺志向率
1 30代女性	17.8%
2 20代女性	16.6%
3 10代以下女性	11.3%

■全国のいのちの電話の受信件数との比較

2022年の全国の50センター合計の相談件数は、54万4215件で前年比1万7934件増となった。川崎センターの占める割合は全体の2.2%(前年比0.1%減)。

(単位: 件)

区分		18年	19年	20年	21年	22年
全 国	男性	309,565	305,580	261,093	255,638	264,847
	女性	317,910	304,792	259,661	270,643	279,368
	計	627,475	610,372	520,754	526,281	544,215
川 崎	男性	6,640	6,810	5,478	5,932	5,540
	女性	8,031	8,056	5,524	6,296	6,497
	計	14,671	14,866	11,002	12,228	12,037

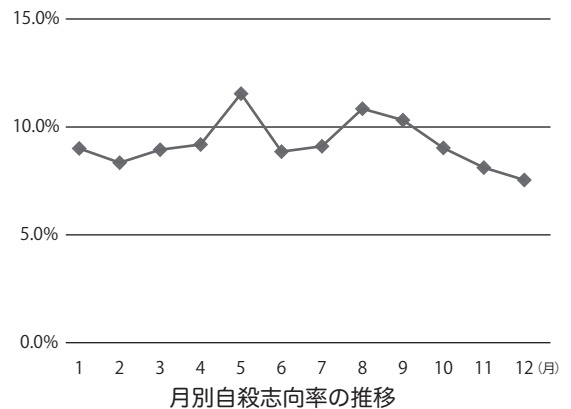
2. 月別受信件数と自殺志向の推移

月別の受信件数のうち、自殺志向が最も高いのは5月の11.5%で、次いで8月の10.8%、9月の10.3%。最も低いのは12月の7.5%。

全国の月別自殺者は、5月が最も高く、最も低いのは2月だった。

(単位: 件)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
受信件数	945	816	1,007	1,061	1,110	1,039	1,023	968	892	1,018	1,097	1,061	12,037
内自殺志向数	85	68	90	97	128	92	93	105	92	92	89	80	1,111
自殺志向率	9.0%	8.3%	8.9%	9.1%	11.5%	8.9%	9.1%	10.8%	10.3%	9.0%	8.1%	7.5%	9.2%

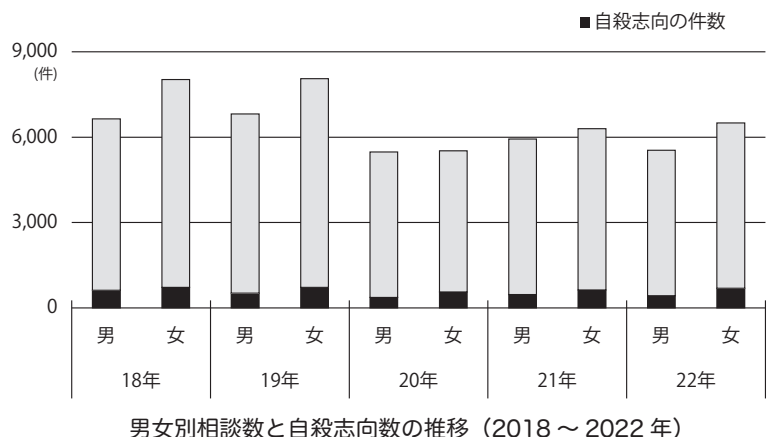


3. 男女別相談数と自殺志向の推移 (2018年~2022年)

相談全体の男女比率は、男性46.0%、女性54.0%で女性が多い。自殺志向は男性は0.3%減ったが、女性は0.5%増え3年連続で10%を超えた。

(単位: 件)

区分	18年	19年	20年	21年	22年
男性	6,640	6,810	5,478	5,932	5,540
女性	8,031	8,056	5,524	6,296	6,497
計	14,671	14,866	11,002	12,228	12,037
自殺志向率 男性	9.3%	7.6%	6.7%	7.9%	7.6%
自殺志向率 女性	9.0%	9.0%	10.1%	10.1%	10.6%
自殺志向率 計	9.1%	8.3%	8.4%	9.0%	9.2%



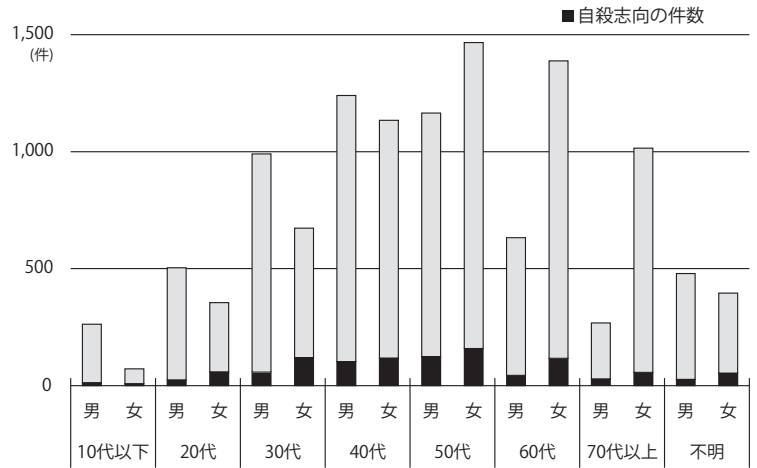
4. 年代別相談数と自殺志向

相談全体では40、50代が多いが、自殺志向が高いのは20～30代の女性。

男性の自殺志向は50代と70代が高い。

(単位：件)

区分	全体				自殺志向率		
	男性	女性	計	%	男性	女性	計
10代以下	262	71	333	2.8%	5.0%	11.3%	6.3%
20代	504	355	859	7.1%	4.8%	16.6%	9.7%
30代	990	673	1,663	13.8%	5.9%	17.8%	10.7%
40代	1,240	1,134	2,374	19.7%	8.3%	10.4%	9.3%
50代	1,165	1,466	2,631	21.9%	10.6%	10.8%	10.7%
60代	632	1,388	2,020	16.8%	7.0%	8.4%	8.0%
70代以上	268	1,015	1,283	10.7%	10.8%	5.5%	6.6%
不明	479	395	874	7.3%	5.6%	13.4%	9.2%
計	5,540	6,497	12,037	100.0%	7.6%	10.6%	9.2%



年代別相談数と自殺志向数

5. 内容別相談数と自殺志向

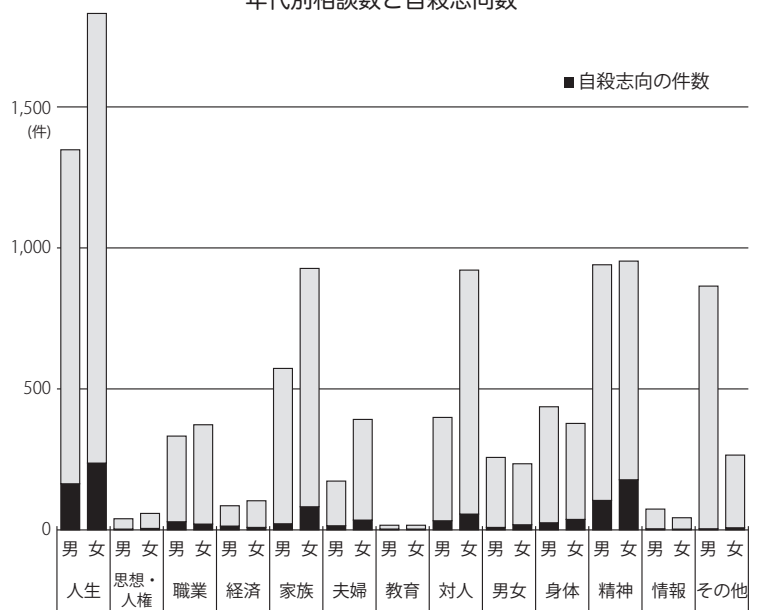
相談件数の多いのは前年と同様に「人生」「精神」「家族」の順。

自殺志向の割合で最も高いのは「教育」「精神」、次いで「人生」「経済」。

(「教育」は相談件数自体が少ないため参考値)

(単位：件)

区分	全体				自殺志向率		
	男性	女性	計	%	男性	女性	計
人生	1,349	1,832	3,181	26.4%	12.1%	12.9%	12.6%
思想・人権	39	58	97	0.8%	5.1%	8.6%	7.2%
職業	332	373	705	5.9%	8.4%	5.4%	6.8%
経済	85	103	188	1.6%	15.3%	8.7%	11.7%
家族	573	928	1,501	12.5%	3.8%	8.8%	6.9%
夫婦	173	392	565	4.7%	8.1%	8.7%	8.5%
教育	16	16	32	0.3%	12.5%	18.8%	15.6%
対人	399	922	1,321	11.0%	8.0%	6.1%	6.7%
男女	257	234	491	4.1%	3.5%	7.7%	5.5%
身体	437	378	815	6.8%	5.7%	9.8%	7.6%
精神	941	953	1,894	15.7%	11.1%	18.7%	14.9%
情報	74	43	117	1.0%	5.4%	7.0%	6.0%
その他	865	265	1,130	9.4%	0.5%	2.6%	1.0%
計	5,540	6,497	12,037	100.0%	7.6%	10.6%	9.2%



内容別相談数と自殺志向

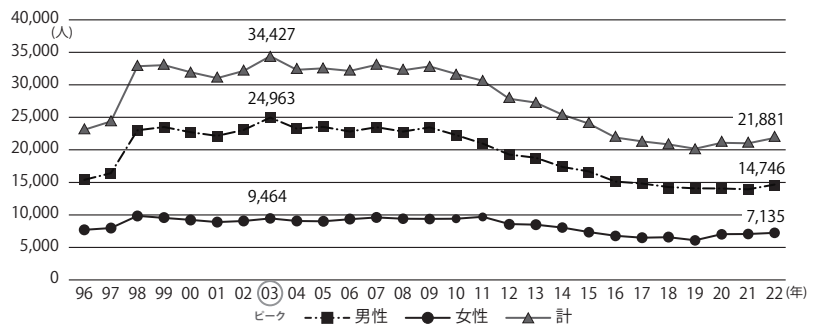
6. 全国の自殺者2万1881人。男性が13年ぶりに増加。児童・生徒が過去最多の514人

2022年の全国の自殺者は2万1881人で、前年比874人(4.2%)増となり、2年ぶりに増加した。男女別では、男性が1万4746人(同807人増)で13年ぶりの増加、女性が7135人(同67人増)で3年連続の増加となった。男性の自殺者数は女性の約2.1倍。

年代別では、50代が4093人(18.7%)で最も多く、次いで40代3665人(16.7%)、70代2994人(13.7%)の順。増加幅でも50代が最も多く前年比475人増、次いで80代以上が前年比276人増の2490人となった。減少した年代は20代が前年比128人減の2483人、30代が前年比9人減の2545人、70代が前年比15人減の2994人だった。19才以下は前年比48人増の798人。このうち児童・生徒は514人で、警察庁の統計開始以降、初めて500人を超えた。

原因別は前年と同様に「健康問題」が多く、次いで「家庭問題」「経済・生活問題」「勤務問題」の順。

発生地都道府県別では神奈川県は1337人で前年比115人増。自殺死亡率(10万人あたりの自殺者数)は昨年の13.2人から14.5人に増加した。全国では徳島県の12.5人に次いで2番目に少ない(昨年は最少)。



自殺者数の年次推移

■川崎市は207人

川崎市の自殺者は207人で前年と比べて38人増加した。男女別では男性133人、女性74人で、男性は女性の1.8倍。自殺死亡率は13.43人。

(厚生労働省、川崎市データより)

川崎市自殺者数推移

(単位：人)

区分	18年	19年	20年	21年	22年
男性	115	127	133	106	133
女性	69	64	65	63	74
計	184	191	198	169	207
自殺死亡率	12.70	12.48	12.86	10.97	13.43

2022年度決算

事業活動計算書

単位：円

収益の部	
科 目	金 額
相談事業	9,307,000
育成事業	1,389,200
受託事業	2,094,200
その他事業	5,823,600
川崎市補助金	5,189,600
神奈川県助成金	484,000
武田薬品助成金	150,000
経常経費寄付	5,907,786
経常経費寄付金	2,999,786
一般寄付	2,999,786
会員会費収入	2,908,000
賛助会員寄付	2,614,000
維持会員寄付	294,000
事業推進部収入	2,687,039
企画部収入	2,217,929
制作部収入	469,110
その他収入	0
収益合計(1)	17,901,825

費用の部	
科 目	金 額
人件費	6,881,355
事業費	6,731,295
企画部支出	1,869,449
制作部支出	216,210
委員会費	449,407
広報費	638,299
受託事業支出	585,804
教育指導費	1,295,251
その他支出	1,676,875
事務費支出	4,749,889
事務消耗品	458,051
水道光熱費	703,868
通信運搬費	1,109,270
リモート設備費	651,172
その他支出	1,827,528
減価償却費	2,020,161
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 612,343
費用合計(2)	19,770,357

サービス活動増減差額(1)-(2) △1,868,532

貸借対照表

単位：円

資産の部	
科 目	金 額
流動資産	28,585,592
現金預金	28,382,629
現金	77,158
事業推進部現金	397,581
普通預金	3,899,019
貯蓄預金	3,274,814
郵便振替口座	5,733,632
定期預金	15,000,425
未収金	0
前払費用	202,963
固定資産	108,255,808
基本財産	100,000,000
土地	22,000,000
基本財産特定預金	20,000,000
建物	58,000,000
減価償却累計額(建物)	△ 11,890,000
減価償却積立預金	11,890,000
その他固定資産	8,255,808
資産の部合計	136,841,400

負債の部	
科 目	金 額
流動負債	237,623
未払金	73,043
預り金	164,580
負債の部合計	237,623

純資産の部	
科 目	金 額
基本金	100,000,000
国庫補助金等特別積立金	29,971,906
その他積立金	0
次期繰越活動増減差額	6,631,871
(うち当期活動増減差額)	△1,866,950
純資産の部合計	136,603,777

負債及び純資産の部合計 136,841,400

2023年度予算案

事業活動による収支

単位：円

収益の部	
科 目	金 額
相談事業	9,439,600
育成事業	1,830,000
受託事業	1,920,000
その他事業	5,689,600
川崎市補助金	5,189,600
神奈川県助成金	500,000
経常経費寄付	5,300,000
経常経費寄付金	2,500,000
一般寄付	2,500,000
会員会費収入	2,800,000
賛助会員寄付	2,500,000
維持会員寄付	300,000
事業推進部収入	3,900,000
企画部収入	3,000,000
制作部収入	900,000
その他収入	55,000
収益合計(1)	18,694,600

費用の部	
科 目	金 額
人件費	7,000,000
事業費	6,925,000
企画部支出	1,746,000
制作部支出	250,000
委員会費	650,000
広報費	500,000
受託事業支出	1,159,000
教育指導費	1,400,000
その他支出	1,220,000
事務費支出	3,609,600
事務消耗品	500,000
水道光熱費	550,000
通信運搬費	700,000
IT関連設備費	260,000
その他支出	1,599,600
減価償却積立資産支出	1,160,000
費用合計(2)	18,694,600

サービス活動増減差額(1)-(2) 0

<役員名>

評議員

市川 功一 千田 智子 北條 秀衛
 松原 成文 伊藤 初美 堂本 典希
 西村恭仁子 山本 直正 山田美和子
 吉田 伸一 <任期は2025年6月まで>

理事長

金子 圭賢

理事

安達 成功 井田 光政 鈴木 清
 張 賢徳 森 登美夫 有田 茂(事務局長)

監事

関口 賢次 増山 雅久

顧問

阿部 孝夫 近藤 八千代

参与

瀧野 修 <任期は2025年6月まで>

「2023年度/2022年度事業案内」を発行しました。1年間の活動の報告とこれからの1年間の計画、決算・予算の概要、電話相談の推移などを紹介しています。詳しい内容は、川崎いのちの電話のホームページ(<https://kawasaki-inochinodenwa.jp>)に掲載します。

寄付感謝

2022年度は次の方々、法人・団体の皆さんから温かい寄付をいただきました。感謝してご報告します。

《個人》

高橋 勉	瀧野 修	金井 勉	関山みどり	山田 長満	齋藤 正	高木 弘美	小出 慶一	平岩圭浦里
森山 定雄	浅田 美子	近藤百合江	加藤 紹大	坂尾 宜徳	宮原 信子	葛西 誠也	前山 英二	横川 桂子
山鹿 文子	粟澤由利子	鈴木 恵子	岡田 良子	深瀬 正子	靱山 勝雄	山本 苑子	小島 克巳	高村 真
関 聖一	光山 慎一	五十嵐みつこ	高橋 真弓	山田美和子	山本 直正	鏑木 昌代	鈴木 清	中川 隆
安田 享二	平井 智子	富田美津子	小林 峯子	山下 秀男	河合 東	粟井 清	阿部 孝夫	中由 光徳
村上カズコ	小林美年子	松岡 光子	手塚 豊子	木村 巖	岡安 敬夫	田玉由希子	市川 功一	坂本 治子
白石 弘巳	棚部 哲男	穴戸信次郎	濱田 徹	伊佐 良夫	山田 将二	土橋 量子	丸島 知子	長塚いつ子
木澤 静雄	藤 雅文	稲川 菊代	馬淵 栄子	大石 眞理	中島 泰己	渡邊 新治	大澤 陽子	関口 晴雄
中里 君江	伊藤 靖子	斉藤加奈子	河合 眞	今野タネ子	森瀬 大蔵	田村 周子	佐藤恵美子	遠山とよ子
太幡世記子	吉田 伸一	安藤 健雄	肥塚 由美	土屋由美子	羽倉のり子	瀬森 尚羊	大久保規矩夫	森 光子
岡本由利子	長掛 栄一	金子 顕	松島 太郎	杉浦 初子	藤野 竹子	吉田 久弘	高梨 齊	松尾 信子
林 茂	石川 俊恵	藤嶋とみ子	碓井 俊昭	伊藤 素美	山岡 道夫	早崎 悦子	片山世紀雄	秦 ひろみ
柴田 頼子	北條 秀衛	岩佐 頌子	田中 康夫	井上美千代	伊藤 初美	桜庭 美木	三國 祥子	山本 剛
山口 恒太	矢田部光江	鈴木 早苗	松久 順子	奥 秀子	久保美矢子	井田 光政	小島 良子	笹川 泰弘
石井 秋雄	石井 友子	伊藤 英雄	木崎 光子	近藤八千代	菅沼 雪絵	広島 晴美	佐々木陽子	亀岡 大造
島崎 祥子	平野 勇輝	碓井 正之	金子 圭賢	亀谷 眞実	古橋 和好	久保田洋子	安達 成功	漆原 敦子
平 菜々子	山田 信子	森 清	磯辺栄次郎	藤岡 勝	松岡 信子	清水 幸夫	加藤トミ子	小林 直人
石原 淳子	渡邊洋太郎	澤 洋子	西田喜久子	余湖はれみ	井上 桂子	梶川 明美	塩島えり子	原田美千子
小松 終子	櫻井 貴裕	立川 典子	笠原 光子	野口 新二	小山 明子	匿名希望16名		

《法人・団体》

株ティーカーラ	川崎生田ライオンズクラブ	株由貴工務店	有太平商事
高津区鎮座白髭神社	川崎富士見ライオンズクラブ	四つ葉グローバルクラブ	LC国際協会330-B地区5R-2Z
LC国際協会330-B地区キャビネット事務局	LC国際協会330-B地区4RC	桜鳳興業株	(宗)潮音寺
株ニッケン石橋	株多摩設計	ジェクト株	堂本製菓株
国際ソロプチミスト川崎	YOKOHAMA BELL ライオンズクラブ	柿生地区社会福祉協議会青少年福祉委員会	川崎東ライオンズクラブ
川崎臨海ライオンズクラブ	久津間製粉株	(株)三泉	三恵物産株
東京恩寵教会執事会	オール川崎ライオンズクラブ連絡協議会	(一社)川崎市弘済会	日本キリスト教団溝ノ口教会
株アドバンスホーム	おくせ医院	川崎教会教会学校	日本基督教団新丸子教会
社生命保険協会神奈川県協会	LC国際協会330-B地区4R-2Z	元住吉教会教会学校	(学)捜真女学校高等学部中部
ソニー生命保険株MDRTソニー会社会貢献委員一同	日本キリスト教団元住吉教会	ケイ・アイ商事株式会社	横浜元町ライオンズクラブ
カリタス学園同窓会	金精軒製菓株	LC国際協会330-B地区4R	リサイクル募金きしゃぼん
チャリティイベント募金箱	古本募金箱	募金箱	共同購入
Aグループ一同	23期一同		

■財政支援にご協力をお願いします

24時間365日眠らぬ電話相談活動は、資金ボランティアからの会費、寄付により支えられています。相談員の養成、研修のほか、建物の維持管理、人件費、事務費、広報活動に年間約1600万円の資金が必要です。自前での資金確保(チャリティ事業による収益など)に努めているほか、川崎市からの補助金、多くの個人、法人・団体から寄付をいただいています。2018年4月に財政基盤の安定のため、「川崎いのちの電話支援会」が発足しました。どうぞ皆さまのご理解とご支援を心からお願いします。

川崎いのちの電話への寄付は寄付金税額控除など税制上の対象になります。

◇賛助会員 定期的に会費で寄付をいただける個人、法人・団体

(1)個人会員	年額	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円
(2)法人・団体会員	年額	10万円	5万円	3万円	1万円	

◇寄付 個人、法人・団体ともに金額、回数を定めない場合。相続や遺贈による寄付も控除対象となります。

◇振込先 (1) ゆうちょ銀行からの振り込み(払込取扱票にて) 口座番号:00240-2-36798 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話
(2) 他銀行からの振り込み 銀行名:ゆうちょ銀行 店名:〇二九(ゼロニキュウ店) 預金科目:当座
口座番号:0036798 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話

お問い合わせ:川崎いのちの電話事務局(044-722-7121 平日10時~17時)

■「リサイクル募金 きしゃぼん」へのご協力をお願いします

読み終わった本やDVD・CD、未使用切手・ハガキなどを「リサイクル募金 きしゃぼん」に引き渡すと、その売却代金が川崎いのちの電話に寄付されます。

以下のホームページまたはフリーダイヤルで申し込むと、宅配業者が宅配料無料で集荷し、査定金額が川崎いのちの電話に寄付されます。寄付控除の対象となります。詳細はホームページをご参照ください。

リサイクル募金 きしゃぼん ホームページ kishapon.com/kawasaki-inochinodenwa
フリーダイヤル 0120-29-7000(9時~18時)